

授業科目	基礎看護学 原論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	赤堀夏海	
								職種	看護師	
授業の ねらい ・目標	看護の概念を捉え、保健医療福祉の中での看護の役割と責務、専門性について学ぶ 1. 看護の変遷を通して看護の概念、看護の役割を理解できる 2. 健康の概念を広く捉えて理解できる 3. 看護の対象である人間の特徴と、生活者としての人間を理解できる 4. 看護の機能と役割について理解できる									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者		
		1	看護学を学ぶ姿勢・看護の定義				講義	赤堀		
		2	看護とは何か				講義	赤堀		
		3	看護の歴史的変遷、職業としての看護の確立				講義	赤堀		
		4	看護の対象である人間について				講義	赤堀		
		5	健康とは何か				講義	赤堀		
		6	国民の健康について統計から理解する				講義	赤堀		
		7	看護実践のための理論的根拠について				講義	赤堀		
		8	看護実践のための理論的根拠についてグループワーク1				講義・GW	赤堀		
		9	看護実践のための理論的根拠についてグループワーク2				講義・GW	赤堀		
		10	グループ発表1				講義	赤堀		
		11	グループ発表2				講義	赤堀		
		12	看護における倫理について				講義	赤堀		
		13	医療安全と医療の質保証について				講義	赤堀		
		14	看護をめぐる制度と政策について				講義	赤堀		
		15	試験、まとめ					赤堀		
	単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験、グループワーク									
履修上の 注意	毎回授業目標に沿ったまとめを各自で行い、質問等も記入してもらいます。積極的に取り組んでください。グループワークも主体的に取り組んでください。									
テキスト	茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野「看護学概論」 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳「看護の基本となるもの」日本看護協会出版 城ヶ端初子著「誰でも分かる看護理論」サイオ出版 田村やよひ著「私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法」 日本看護協会出版会 東京医科大学看護専門学校編「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社									
参考図書	薄井坦子他訳「フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書 看護であること看護でないこと」現代社 長谷川浩他訳「トラベルビー人間対人間の看護」医学書院									

授業科目	基礎看護技術 I-1	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	塚田 佳代美 増田 幸子
								職種	専任教員
授業のねらい・目標	<p>すべての看護行為に共通する基本的な看護技術を学ぶ</p> <p>1. 対象を全人的に把握し、日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ</p> <p>2. 健康障害を持つ対象を理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識・技術・態度を学ぶ</p> <p>1) フィジカルイグザミネーションに関する基礎知識と手技を理解できる</p> <p>2) 観察の視点と必要性を学ぶとともに、記録の書き方・記載する内容・報告に関する基礎知識を理解でき、技術と態度を学習できる</p> <p>3) 学習支援における看護の役割を理解し、対象のセルフケア能力の向上を支援するために必要な知識・技術・態度を学ぶ</p> <p>4) 事例に対する学習支援計画書、教材作成を行いロールプレイを通して学習支援の基礎を学ぶ</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
	学習支援	1	患者教育・指導から学習支援へ				講義	塚田	
		2	学習支援の意義と健康状態の変化に伴う学習支援				講義	塚田	
		3	事例に基づいて学習支援のテーマ目標、必要な教材検討				GW	塚田	
		4	目標から必要な支援内容を検討し、資料作成(栄養指導、生活指導ほか)				GW	塚田	
		5	学習支援計画書に基づいて教材を使用しロールプレイ実施				発表	塚田	
	フィジカルイグザミネーション	6	バイタルサインとは、観察の必要性				講義	増田	
		7	意識、体温				講義・演習	増田	
		8	脈拍、呼吸、血圧①				講義・演習	増田	
		9	脈拍、呼吸、血圧②				講義・演習	増田	
		10	バイタルサインの実際				講義・演習	増田	
		11	記録・報告、身体計測				講義・演習	増田	
		12	呼吸・循環のフィジカルイグザミネーション				講義・演習	増田	
		13	消化器・運動器・神経系のフィジカルイグザミネーション				講義・演習	増田	
		14	フィジカルイグザミネーションの演習				演習	増田	
	15	試験(学習支援45分、フィジカルイグザミネーション45分)					塚田・増田		
評価方法	筆記試験および講義中の課題提出により総合的に評価する。								
履修上の注意	演習は十分な練習をして臨んでください。								
テキスト	有田清子他著 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 日野原重明監修 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 小田正枝 症状別看護過程 照林社 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル① SENKOSHA 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル② SENKOSHA								
参考図書	横山美樹 初めてのフィジカルアセスメント メディカ出版 日野原重明著 フィジカルアセスメント 医学書院 日野原重明監修 バイタルサインの見方・読み方 照林社 岡安大仁 ナースのための聴診スキルの教室 Gakken 藤野智子監修 基礎と臨床がつながるバイタルサイン Gakken 一柳陽子他著 看護学生のためのバイタルサインよくわかるBOOK メデカルフレンド社 村上美好著 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント インターメディカ聖マリアンナ医科大学看護部編集 みるみる身につくバイタルサイン 照林社								

授業科目	基礎看護技術 I-2	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	市川貴志 塚田 佳代美	
								職種	専任教員	
授業のねらい・目標	すべての看護行為に共通する基本的な看護技術を学ぶ 1. 対象を全人的に把握し、日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 2. 健康障害を持つ対象を理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1) コミュニケーションに関する基礎的知識を理解し、技術・態度を身につけることができる 2) 自己のコミュニケーションの傾向を知り、今後の他者との関わり方を考えることができる 3) リフレクションに関する基礎的知識・技術・態度を学習できる 4) 看護におけるリフレクションを理解し、実践できる 5) 対象が安全に診療が受けられ療養生活が送れるように安全・感染に関する基礎的知識・技術・態度を学習する									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
	安全・感染	1	感染の基礎知識、感染の脅威、感染予防に対する看護師の役割				講義・GW	市川		
		2	手洗いの実際、個人防護用具の使用法、経路別予防策				講義・演習	市川		
		3	洗浄・消毒・滅菌、滅菌物の取り扱い				講義	市川		
		4	個人防護用具の着脱、滅菌物の取り扱いと無菌操作				演習	市川		
		5	安全管理				講義	市川		
	コミュニケーション・リフレクション	6	コミュニケーションの意義と目的 看護・医療におけるコミュニケーション				講義	塚田		
		7	関係構築のためのコミュニケーションの基本				講義	塚田		
		8	効果的なコミュニケーションの実際(傾聴とアサーティブネス)				講義・GW	塚田		
		9	価値観とコミュニケーション				講義・GW	塚田		
		10	リフレクションと看護				講義・演習	塚田		
		11	リフレクションの実際(プロセスレコード)				講義	塚田		
		12	コミュニケーションの実際とプロセスレコード				演習	塚田		
		13	プロセスレコードの振り返り、ロールプレイング				講義・GW	塚田		
		14	プロセスレコードの評価とリフレクションのまとめ				講義・演習	塚田		
	15	試験					塚田			
単元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験、演習および講義中の課題提出、レポートにより総合的に評価する。 課題の提出期限が遅れた場合は減点とする。									
履修上の注意	演習は真剣に取り組むこと 安全・感染の授業終了後:基礎看護技術まとめドリル①2日目・3日目の内容を解く コミュニケーションの授業終了後:基礎看護技術まとめドリル①1日目の内容を解く									
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I・II 医学書院 村上美好著 写真でわかる基礎看護技術② インターメディア									
参考図書	川野雅資・大谷佳子 会話分析でわかる看護師のコミュニケーション技術 中央法規 福沢周亮・桜井俊子 看護コミュニケーション 基礎知識と実際 教育出版 太湯好子 患者の心に寄り添う聞き方、話し方 メヂカルフレンド社									

授業科目	看護技術Ⅱ-1 日常生活の自立 を支える看護技術 生活環境 日常生活行動		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	大澤 恵実子 徳山今日子	
									職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>日常生活の自立を支える看護技術とは看護の対象となる人の生活の自立を支えるための技術である。具体的には、体位変換・移動・移送などの日常の生活行動や生活環境を整える技術をいう。</p> <p>1. 対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 1)活動・休息の意義・効果を知り、安全・安楽を提供できる技術を学習できる。 2)健康生活における生活環境の保持、意義を知り、日常生活行動において人間の生活を高め看護援助ができる。</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
	生活 環境	1	小春さんの就床環境に目を向けてみよう シーツの畳み方					講義・GW	大澤		
		2	環境の概念、諸要素とその調整 シーツの敷きかた					講義・演習	大澤		
		3	自分が入院したらどのような環境で生活したいか考えよう! 自分の感染防御を学ぶ(スタンダードプリコーション)					講義・演習	大澤		
		4	環境の整え方 環境整備					講義・演習	大澤		
		5	ベッドメイキング演習					演習	大澤		
	活動 休息	6	基本的活動の基礎知識・移動(体位変換)					講義・演習	徳山		
		7	移動 体位変換のテクニック①					講義・演習	徳山		
		8	移動 体位変換のテクニック②					講義・演習	徳山		
		9	移動 体位変換のテクニック③ 車椅子移乗					講義・演習	徳山		
		10	歩行・車椅子移乗・ストレッチャー移乗 スライディングボード・スライディングシート使用法					講義・演習	徳山		
		11	睡眠と安静の援助					講義	徳山		
		12	褥瘡予防 体圧分散 弾性ストッキング装着方法 マルチグローブを使った背抜きなどの褥瘡対策					講義・演習	徳山		
		13	体位変換・車椅子移乗演習					演習	徳山		
	評価	14	筆記試験					筆記試験	大澤・徳山		
15		合同技術試験					演習				
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験80点・合同技術試験20点										
履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・演習日にそなえて技術練習を重ねた上で臨んで下さい。 ・合同技術試験に関しては、別途の要綱をお渡しします。 <p>各授業ごとに出された技術項目の合格を取れない場合は、合同技術試験に参加できませんので放課後等を使って練習しましょう。</p>										
テキスト	有田清子他，系看 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ，医学書院 吉田みつ子監修，写真でわかる基礎看護技術，インターメディカ 本庄恵子監修，写真でわかる臨床看護技術①，インターメディカ 本庄恵子監修，写真でわかる臨床看護技術②，インターメディカ 登内秀子監修，基礎看護技術まとめドリル①，SENKOSHA										
参考図書	ヴァクター・スクルトコヴィッチ編，看護覚え書決定版，医学書院(入学前購入のもの) ヴァージニア・ヘンダーソン著，看護の基本となるもの，現代社 山内豊明著，フィジカルアセスメントガイドブック，医学書院										

授業科目	基礎看護技術 Ⅱ-2	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	宮崎杏子		
								職種	専任教員		
授業のねらい・目標	看護の対象となる人の生活の自立を支える技術を学ぶ。 1. 対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2. 健康生活における日常生活行動の意義を知り、生活を高めるための看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 1) 健康生活における清潔の意義を知り、清潔が保持できるための基礎的知識・技術・態度を習得できる。 2) 整容の意義を知り、健康生活における整容・衣生活に必要な基礎的知識・技術・態度を習得できる。										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者			
	衣生活・清潔・整容	1	健康生活における清潔・整容の意義と実際				講義	宮崎			
		2	モーニングケア（口腔ケア・洗面・髭剃り・手拭き・手浴）				講義/デモ	宮崎			
		3	イブニングケアについて（足浴）				講義/デモ	宮崎			
		4	モーニングケアのタスク演習				演習	宮崎			
		5	洗髪の基礎知識と実際				講義/デモ	宮崎			
		6	イブニングケアのタスク演習（足浴）				演習	宮崎			
		7	洗髪のタスク演習				演習	宮崎			
		8	洗髪のタスク演習				演習	宮崎			
		9	シャワー浴介助・入浴介助				講義/デモ	宮崎			
		10	寝衣交換・全身清拭の基礎知識と実際				講義/デモ	宮崎			
		11	寝衣交換・全身清拭のタスク演習				演習	宮崎			
		12	寝衣交換・全身清拭のタスク演習				演習	宮崎			
		13	清潔・衣生活・排泄 合同演習 1		3月			演習	宮崎		
		14	清潔・衣生活・排泄 合同演習 2		3月			演習	宮崎		
15	まとめ、試験				講義・演習	宮崎					
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験・実技試験、講義・演習への参加態度により総合的に判断します。 (3月の演習で20点)										
履修上の注意	・演習日は授業開始時に明示するが、演習日が多いため体調管理をし受講できるように調整してください。 ・演習日に備えて、技術練習を重ねた上で臨んで下さい。										
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③ 「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 吉田みつ子監修 「写真でわかる基礎看護技術」 インターメディア 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル① SENKOSHA										
参考図書	縣勢津子監修「看護必携シリーズ20 図解・基礎看護技術 目で見える看護手順」学習研究社 岡崎美智子編「看護技術実習ガイド①基礎看護技術—その手順と根拠—第2版」メヂカルフレンド社 坂本恵子編「看護教育と看護実践に役立つ行動形成プログラム」廣川書店 平田雅子著「ベットサイドを科学する 看護に生かす物理学」学習研究社 川島みどり著「目でみる患者援助の基本」医学 ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 ナイチンゲール著「看護覚え書」現代社 医療情報科学研究所編 「看護がみえるvol. 1」 基礎看護技術 メディックメディア 小林 小百合編 「根拠と写真で学ぶ看護技術 1 生活行動を支える援助」 中央法規 任 和子編 「基礎・臨床看護技術」 医学書院 村中 陽子編 「看護ケアの根拠と技術」 医歯薬出版株式会社 酒井郁子編 リハビリテーション看護 南江堂										

授業科目	基礎看護技術 Ⅱ－3	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	松田 千春 松浦 じゅん	
								職種	専任教員	
授業のねらい・目標	看護の対象となる人の生活の自立を支える技術を学ぶ。 1. 対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2. 健康生活における日常生活行動の意義を知り、生活を高めるための看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 1) 健康生活における食事の意義を知り、日常生活において人間の生活の質を高める援助技術の基礎的知識・技術・態度を習得できる。 2) 健康生活における排泄の意義を知り、自然排泄および排泄の援助に必要な基礎的知識・技術・態度を習得できる。									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
	栄養・食事	1	食事の意義、日本における現代の食生活と厚生労働省の指針				GW・講義	松田		
		2	ヘンダーソンの飲食に関する基本概念と観察・アセスメントの視点				GW・講義	松田		
		3	食事介助の援助				講義	松田		
		4	食事介助の援助				演習・GW	松田		
		5	摂食・嚥下障害のある患者の看護 非経口栄養法について				演習・GW	松田		
		6	経管栄養カテーテル挿入法				講義	松田		
	排泄	7	排泄の意義・排泄のメカニズム、排泄障害のある患者の看護				講義	松浦		
		8	排便のメカニズム、排便障害のある患者の看護				講義	松浦		
		9	自然排尿・自然排便の介助の方法				講義・演習	松浦		
		10	オムツによる排泄援助、陰部洗浄について				講義・演習	松浦		
		11	陰部洗浄とオムツ交換①				講義・演習	松浦		
		12	陰部洗浄とオムツ交換②				講義・演習	松浦		
		13	陰部洗浄とオムツ交換（演習）				演習	松浦		
		14	清潔・衣生活・排泄 合同演習 3月				演習	松浦		
15		試験(栄養・食事45分、排泄45分)					松田・松浦			
單元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験、講義・演習への参加態度により総合的に判断する。 演習はルーブリック評価により採点します。									
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・演習日は授業開始時に明示するが、各科目の演習が重なるため事前準備をして受講して下さい。 ・演習日にそなえて、技術練習を重ねた上で臨んで下さい。 ・看護技術計画書は必ず作成すること。 ・栄養食事の授業終了後：基礎看護技術まとめドリル① 21日目～24日目を解いて提出すること。 ・排泄の授業終了後：基礎看護技術まとめドリル① 26日目～28日目を解く。 									
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③ 「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 吉田みつ子監修 「写真でわかる基礎看護技術アドバンス」 インターメディカ 系統看護学講座 解剖生理学（医学書院） 登内秀子監修、基礎看護技術まとめドリル①、SENKOSHA									
参考図書	医療情報科学研究所編 「看護技術がみえるvol. 2」 基礎看護技術 メディックメディア 小林 小百合編 「根拠と写真で学ぶ看護技術1生活行動を支える援助」 中央法規 任 和子編 「基礎・臨床看護技術」 医学書院 村中 陽子編 「看護ケアの根拠と技術」 医歯薬出版株式会社									

授業科目	基礎看護技術 Ⅲ-1		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	市川 貴志 宮崎 杏子 松田 千春	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	診療に伴う援助技術として、医師が行う診療や治療の介助のための看護技術や医師の指示によって看護師が行う看護技術、急変時の看護技術を学ぶ 1. 対象が受ける治療や処置に伴う看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ 2. 対象の状況に合わせて必要な看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1)救命処置が必要な対象への対応方法の意義と看護援助の基礎的知識・技術・態度を理解できる 2)治療・処置を受ける対象を理解し、診療場面における看護を習得できる 3)呼吸や排泄を支えるための看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	包帯・救急法	1	救急医療の歴史、急変時の初期対応、一次救命処置					講義	市川		
		2	一次救命処置の実際					演習	市川		
		3	包帯法の基礎知識と実際					講義・演習	市川		
		4	創傷管理の基礎知識、止血法					講義・演習	市川		
	呼吸を支援する技術	5	罨法の実際					講義・演習	宮崎		
		6	酸素療法の援助方法と実際					講義・演習	宮崎		
		7	気道内分泌物の喀出方法への援助					講義・演習	宮崎		
		8	吸引法の実際					演習	宮崎		
	排泄を支える看護技術	9	浣腸の意義と基礎知識					講義	松田		
		10	浣腸の援助技術の検討					講義・演習	松田		
		11	浣腸の実際(演習チェック)					演習	松田		
		12	一時的導尿と持続的導尿の基礎知識					講義・演習	松田		
		13	持続的導尿技術の検討					講義・演習	松田		
		14	持続的導尿の実際(演習チェック)					演習	松田		
		15	試験・まとめ							市川・宮崎・松田	
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験・講義・演習への参加態度により総合的に判断する 課題提出期限や課題提出方法が守られなければ、減点します										
履修上の注意	他科目の履修状況にあわせての学科進度となっており、講義間の期間が開く場合がある 心肺蘇生法・AEDを体験する 包帯・救急法の授業終了後:基礎看護技術まとめドリル② 24日目・26日目・27日目・28日目を解く 呼吸を支える援助技術終了後:基礎看護技術まとめドリル② 1日目～5日目を解く 排泄を支える技術の授業終了後:基礎看護技術まとめドリル① 29日目・30日目を解いて提出す										
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③ 「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 本庄恵子監修 「写真でわかる臨床看護技術①」 インターメディア 本庄恵子監修 「写真でわかる臨床看護技術②」 インターメディア 坂井建雄、系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院 茂野香おる 系統看護学講座 専門 成人看護学概論 医学書院 小田正枝 症状別看護過程 照林社 登内秀子監修、基礎看護技術まとめドリル①, SENKOSHA 登内秀子監修、基礎看護技術まとめドリル②, SENKOSHA										
参考図書	縣勢津子監修「看護必携シリーズ20 図解・基礎看護技術 目で見る看護手順」学習研究社 大岡良枝編「なぜ？がわかる看護技術Lesson」学習研究社 医療情報科学研究所編「看護技術がみえる②」臨床看護後術 メディックメディア 小林 小百合編「根拠と写真で学ぶ看護技術2生活行動を支える援助」中央法規 任 和子編「基礎・臨床看護技術」医学書院 村中 陽子編「看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版株式会社										

授業科目	基礎看護技術 Ⅲ-2	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	市川貴志 松浦じゅん
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>診療に伴う技術とは、医師が行う診療や治療の介助のための看護技術や医師の指示によって看護師が実施する看護技術、救急時の看護技術の基礎的知識・技術態度を学ぶ</p> <p>具体的には、検査・与薬の看護技術をいう</p> <p>1)健康障害を持つ対象を多角的に理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識を理解し、技術を学習できる</p> <p>2)検査・与薬時の対象の心理を理解し、検査・与薬における看護者の役割が理解できる</p> <p>3)検査・与薬における看護技術が安全に提供できる基礎的な知識を理解し、技術を学習できる</p>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
	検査	1	検査における看護師の役割、尿検査・便検査・喀痰検査				講義	市川	
		2	生体情報のモニタリング、穿刺検査				講義	市川	
		3	血液検査(動脈血採血・血糖測定・静脈血採血)				講義	市川	
		4	真空採血管による採血演習				演習	市川	
		5	生体検査、検査・処置の介助				GW	市川	
	与薬時の 援助技術	6	与薬における看護師の役割、薬物動態				講義	松浦	
		7	経口与薬・口腔内与薬、吸入、点眼、点鼻、				講義	松浦	
		8	経皮的与薬、直腸内与薬				講義・演習	松浦	
		9	注射法の基礎知識、注射の共通操作				講義・演習	松浦	
		10	静脈内注射の基礎知識、ワンシヨット				講義・演習	松浦	
		11	点滴静脈内注射、輸液ポンプの必要性				講義・演習	松浦	
		12	点滴静脈内注射の演習				講義・演習	松浦	
		13	皮下注射・皮内注射・筋肉注射・輸血管理				講義・演習	松浦	
		14	皮下注射・筋肉注射・静脈内注射の演習				演習	松浦	
		15	試験・まとめ				講義・試験	市川・松浦	
単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験、課題提出、グループ学習・講義・演習への参加態度により総合的に判断する。課題提出期限や課題提出方法が守られなければ、減点します。								
履修上の 注意	採血・皮下注射・筋肉注射・静脈内注射の演習では、針を使用します。十分に学習し安全に配慮しながら演習が行えるよう準備をしてくてください。								
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 本庄恵子監修「写真でわかる臨床看護技術①」インターメディカ 本庄恵子監修「写真でわかる臨床看護技術②」インターメディカ 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル② SENKOSHA								
参考図書	福家幸子著、注射・採血ができる[Web動画付](医学書院) 安藤郁子編著、根拠と写真で学ぶ看護技術3検査・治療を支える援助(中央法規出版)								

授業科目	看護過程		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	川合 陽子	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>あらゆる健康レベルの対象が、健康生活を営めるように援助するために必要な思考過程を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解できる 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる思考過程について理解できる 3. 看護過程の各段階について基本的な考え方と実際を理解できる 										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	看護過程とは 意義・目的、看護過程の5つの構成要素、ヘンダーソン看護論					講義	川合		
		2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方(問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的配慮と価値判断、リフレクション)ジグソー学習					講義・演習	川合		
		3	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程 情報収集の視点(常在条件、病理的状态、基本的欲求の状態)基本的欲求に関する情報収集項目					講義	川合		
		4	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析) 呼吸					講義	川合		
		5	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析) 食事・排泄					講義・演習	川合		
		6	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:基本的欲求の状態(情報の解釈・分析) 活動・清潔					講義・演習	川合		
		7	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:関連図					講義・演習	川合		
		8	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:看護問題リスト					演習	実習担当教員		
		9	看護過程演習(関連図・看護問題リスト)①					演習	実習担当教員		
		10	看護過程演習(関連図・看護問題リスト)②					演習	川合		
		11	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:統合アセスメント・看護計画					講義	川合		
		12	看護計画グループワーク					講義	川合		
		13	看護計画発表					講義	川合		
		14	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程:看護計画の実施・評価					講義	川合		
	15	試験45分間 講義45分間:看護診断					テスト・講義	川合			
評価方法	ペーパーテスト80点、課題提出点10点、看護過程演習10点の合計100点で評価します。										
履修上の注意	看護の対象となる人がその人らしく生きられるよう支援することが看護の目的の一つです。そして、その看護を具体的に実践するために必要なのは「看護過程」の考え方です。「看護過程」とは対象者その人にとって必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論であるとともに思考過程です。既習の知識を活用しながらその人の個別性にあつた看護を実践できるように学習を積み重ねていきましょう。										
テキスト	<p>有田清子他 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版 秋葉公子他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーベルヒロカワ 江崎フサ子他 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ノーベルヒロカワ</p>										
参考図書	<p>黒田裕子 わかりやすい看護過程 照林社 小田正枝 看護過程がよくわかる本 看護理論を実践に活かす 照林社 小田正枝 症状別看護過程 アセスメント・看護計画がわかる 照林社 リンダJ.カルペニート 看護診断ハンドブック 医学書院 NANDA-I看護診断 2018-2020 医学書院 古橋洋子 はじめて学ぶ看護過程 医学書院</p>										

授業科目	基礎看護学 看護研究		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	赤堀夏海	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	看護における研究の意義を学び、専門職としての必要な研究的態度を養う 1. 看護活動における研究の意義を理解できる。 2. 研究の種類・方法について理解できる。 3. 看護研究の一般的プロセスを理解できる。 4. 研究疑問や看護実践における自らの課題を探究していく中で論理的思考・研究的姿勢を身に付けることができる。 5. 複数の研究から得られる知見を統合し、研究課題を調査、レポートにまとめることができる。										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	看護研究の基礎	1	研究・看護研究とは何か 何故看護研究を学ぶのか 帰納法と演繹的推論の仕組みと方法					講義	赤堀		
		2	研究デザイン・研究方法・文献検索の仕方					講義	赤堀		
		3	研究疑問を明確にしよう 仮説を考える シソーラス検索 研究課題の先行文献を探そう					講義	赤堀		
		4	研究課題に関する文献をクリティークしながら読み込もう 研究における倫理について					講義	赤堀		
	文献検討レポート	5	担当教員と方向性(テーマ・取り上げる観点)確認 文献検索、文献リスト作成 序論について					講義・演習	赤堀		
		6	担当教員別指導① レポート構想シートを用いた指導 レポートの骨子(序論)指導 文献検索状況(文献リスト・文献提出)の提示					担当教員サポート 個別対応・個人作業	赤堀		
		7	本論構想メモについて レポート作成(序論、用語の定義、本論、まとめ)					GW 講義・演習	赤堀		
		8	論文構成を考えよう 論旨の一貫性とは何か(論文作成構想)					講義・演習	赤堀		
		9	構想メモを確認しながら本論を書いてみよう					個別対応・個人作業	赤堀		
		10	作成した文書を他者に伝えてみよう。他者の書いたものを読み、何か分かったか、判りにくい部分はどこかなど話し合ってみよう					GW	赤堀		
		11	担当教員別指導② 序論～本論(文献を適切に用いているか)					担当教員サポート 個別対応・個人作業	担当教員		
		12	受けた指導の言語化、他者の文書を読んでみよう					GW 講義・演習	赤堀		
		13	担当教員別指導③ 本論～まとめ(論旨の一貫性があるか)					担当教員サポート 個別対応・個人作業	担当教員		
	研究の基礎	14	どう見せ・伝えると相手に届きやすいか学ぼう 試験45分					講義 筆記試験	赤堀		
15		発表会					発表・聴講	赤堀			
評価方法	筆記試験 40点 夏季休暇中提出課題までの取り組みについて評価 20点 レポート作成 30点 発表 10点										
履修上の注意	日々の学習や看護実践における疑問を探究し、文献研究を基に結論を導きながらレポートにまとめます。 学習に必要な用紙や印刷代金は自己負担となります。 学校のパソコンで文書を作成する場合、シャットダウンで文章は削除されてしまいますのでGoogleドライブへの保管を忘れずに行ってください。基本的に認められていないUSBの使用は禁止しています。 情報の取扱いや倫理的配慮に欠く行動があった場合、単位取得できない可能性があります。										
テキスト	坂下玲子ほか, 系看別巻 看護研究, 医学書院 足立はるゑ, 改訂4版看護研究サポートブック, MCメディカ出版										
参考図書	城ヶ端初子, 誰でもわかる看護理論, サイオ出版										

授業科目	基礎看護学 臨床推論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	増田 幸子	
								職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>看護の対象の置かれている状況を理解し、看護における思考過程を基に、その時に必要な看護を導き出し実践する能力を養う</p> <p>1. 対象に出現している症状・徴候を学ぶ</p> <p>2. 対象の置かれている状況を正確に把握し、看護としての行動が判断できるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ</p> <p>1) 健康障害を持つ対象の症状・徴候から看護の意義を理解し、援助の基本が理解できる</p> <p>2) 対象の置かれている状況を把握するための知識が理解でき、技術を実施できる</p> <p>3) 得られた情報から解釈をし、看護としての行動の意義を理解できる</p> <p>4) 実践した看護を振り返り、次の行動に活かすための努力ができる</p>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当		
	臨床判断	1	臨床判断能力とは、臨床判断のプロセス				講義	増田		
		2	気づくとは DVDから考える				講義・GW	増田		
		3	気づくのトレーニング				講義・GW	増田		
		4	解釈				講義・GW	増田		
		5	反応				講義・GW	増田		
		6	省察				講義・GW	増田		
		7	症状に合わせた臨床判断(呼吸困難・喀痰困難)				講義・GW	増田		
		8	症状に合わせた臨床判断(呼吸困難・喀痰困難)				講義・GW	増田		
		9	症状に合わせた臨床判断(悪心・嘔吐)				講義・GW	増田		
		10	症状に合わせた臨床判断(悪心・嘔吐)				講義・GW	増田		
		11	症状に合わせた臨床判断(がん性疼痛)				講義・GW	増田		
		12	症状に合わせた臨床判断(がん性疼痛)				講義・GW	増田		
		13	反応の実際①				GW	増田		
		14	反応の実際②				演習	増田		
15	省察 振り返り				GW	増田				
評価方法	臨床判断 : 100点 (確認テスト、演習など総合的に判断します)									
履修上の注意	事前課題があります。 演習時は、自己の考えを持って参加してください。									
テキスト	<p>本庄恵子他 写真でわかる基礎看護技術・臨床看護技術①・②</p> <p>坂井建雄 系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院</p> <p>有田清子他 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院</p> <p>山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院</p> <p>小田正枝 症状別看護過程 照林社</p>									
参考図書										

授業科目	地域・在宅看護論 原論 I		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	押尾 智子 外部講師	
									職種	専任教員 保健師	
授業のねらい・目標	<p>地域でくらす人々の健康とくらしを理解し、生活環境が健康に与える影響について学ぶ。自ら互助に参加し、ボランティアや互助組織を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域でくらす人々のくらしを知る 2. 島田市の特徴を知り、地域特性を理解することができる 3. 環境が生活や健康に与える影響を考えることができる 4. 互助に参加し、互助組織を知る 5. 地域・在宅看護論の概念を知る 										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	地域・在宅看護論の概念/生活・地域の捉え方					講義	押尾		
		2	生活の基盤である地域を理解する/地域アセスメントとその意義					講義	押尾		
		3	地区踏査準備					講義	押尾		
		4	地区踏査					演習	押尾		
		5	地区踏査					演習	押尾		
		6	地区踏査					演習	押尾		
		7	地区踏査					演習	押尾		
		8	地区踏査まとめ					講義・演習	押尾		
		9	地区踏査まとめ 発表会					講義・演習	押尾		
		10	地区踏査まとめ 発表会					講義・演習	押尾		
		11	島田市を理解する					講義・グループワーク	押尾		
		12	島田市の特徴と課題・地域での保健師の活動・地域での事業					講義	外部講師(島田市健康づくり課 保健師)		
		13	互助を理解する。課題参加準備					講義	押尾・社協		
		14	様々なボランティア・市の事業の活動の実際を理解する					講義・グループワーク	押尾		
	15	様々なボランティア・市の事業の活動の実際を理解する まとめ					講義・グループワーク	押尾			
評価方法	地区踏査・夏の課題レポートの提出状況やグループワーク参加状況、小テスト20点で評価										
履修上の注意	<p>地区踏査は、島田市内の地域に出向いて調査をします。事前準備や当日は必ず参加が必要です。決められたルールを守り参加してください。終了後は課題レポートを記入し提出となります。夏休みの課題として、地域の事業に参加したりボランティアに参加することが課題となります。講義の中でいくつかアナウンスをしていきますが、各自でアポイントを取り、参加日程、内容など事前に提出をしてください。</p>										
テキスト	河原加代子ほか、地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤										
参考図書											

授業科目	地域・在宅看護論 原論Ⅱ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	松浦 じゅん	
									職種	専任教員 保健師 市(包括ケア推進課)	
授業のねらい・目標	<p>地域包括ケアシステムの理解と在宅看護の変遷、その社会背景をはじめ、地域での看護の目的、基本的な理念、くらしを支えるための制度や社会資源を学ぶ。地域・在宅での対象者を知り、多様な療養の場を理解する。</p> <p>1. 地域包括ケアシステムを知る 2. 地域・在宅での対象者を知り、看護が提供される多様な場の理解ができる 3. 地域での療養を支える制度や社会資源を理解することができる 4. 地域での看護の機能と特徴を理解できる</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	地域・在宅看護の背景を理解しよう					講義	松浦		
		2	島田市における地域包括ケアシステムについて 自助・互助・公助・共助の理解					講義	(包括ケア推進課)		
		3	地域でのくらしを理解する					講義	松浦		
		4	在宅の特徴と看護の対象を理解する					講義	松浦		
		5	看護の対象を理解する・看護が提供される多様な場の理解					講義	松浦		
		6	在宅看護活動の特徴・訪問看護の制度と種類					講義	松浦		
		7	看護の対象の権利と対象者の捉え方					講義	松浦		
		8	家族を理解する					講義	松浦		
		9	家族をとらえるための理論					講義	松浦		
		10	地域でくらす人々を支えるための連携					講義	松浦		
		11	社会資源の活用・関連制度の理解 医療保険・介護保険					講義・演習	松浦		
		12	社会資源の活用・難病法・障害者総合支援法・障害者を支える制度					演習	松浦		
		13	社会資源について病院・診療所・居宅・療養通所介護事業所・訪問看護事業所					演習	松浦		
		14	社会資源について看護小規模多機能型居宅介護・通所サービス・地域包括支援センター・介護施設・老人保健施設等 制度施策の活用					演習	松浦		
	15	まとめ テスト						松浦			
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	河原加代子ほか 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤										
参考図書	押川真喜子監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研										

授業科目	地域・在宅看護論 暮らしを支える看護Ⅰ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	押尾 智子	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>在宅における日常生活援助について、基本的なアセスメントや援助技術の方法を学ぶ。病気や障害を持ち生活することがイメージでき、対象に合わせた看護のあり方を理解する。</p> <p>1. 対象特性に合わせたアセスメントができる</p> <p>2. 療養者の状況に応じた援助技術の方法を理解することができる</p> <p>3. 病気や障害を持ち生活することのイメージができ、必要な看護のあり方を理解することができる</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当			
		1	在宅療養生活を支える基本的技術 信頼関係を築くためのマナーとコミュニケーション方法				講義	押尾			
		2	在宅療養生活を支える基本的技術 信頼関係を築くためのマナーとコミュニケーション方法				演習	押尾			
		3	難病を抱える療養者の療養の実際と看護①				講義	押尾			
		4	難病を抱える療養者の療養の実際と看護② (ALS疾患の理解とコミュニケーション方法)				講義	押尾			
		5	日常生活を支える看護技術・食				講義/演習	押尾			
		6	日常生活を支える看護技術・排泄(摘便等演習含む)				講義/演習	押尾			
		7	日常生活を支える看護技術・清潔/物品の工夫				講義	押尾			
		8	日常生活を支える看護技術・清潔/物品の工夫				演習	押尾			
		9	日常生活を支える看護技術・清潔/物品の工夫				演習	押尾			
		10	日常生活を支える看護技術・活動/褥瘡予防/福祉用具の活用方法				講義/演習	押尾			
		11	療養の場における危機管理/安全管理				講義	押尾			
		12	在宅における看取りとその課題 エンドオブライフケア				講義	押尾			
		13	在宅における看取りとその課題 エンドオブライフケア				講義	押尾			
		14	内服管理/介護で活躍するロボット				講義	押尾			
	15	まとめ テスト					押尾				
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	石田千絵他 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 石田千絵他 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版										
参考図書	押川真喜子監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研										

授業科目	地域・在宅看護論 くらしを支える看護Ⅱ		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次後期	担当者	宮下宝子 中沢弥生 増田幸子	
									職種	認定看護師 看護師	
授業のねらい・目標	<p>在宅看護における安全と健康危機管理について学び、医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的な方法を学ぶ。在宅での医療処置に関する基本的な知識について習得し対象に対する教育的支援方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養に必要な医療機器管理、異常の早期発見、観察の視点を理解することができる 2. 医療廃棄物の取り扱いや感染予防など在宅で医療処置を行う際の基本的注意 事項を理解できる 3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた医療機器管理の教育的支援方法を理解することができる 										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	在宅経管栄養法 経鼻経管栄養・胃瘻管理					講義	宮下宝子		
		2	膀胱留置カテーテル管理、ストーマ管理/災害時の対応や準備含む					講義/演習	宮下宝子		
		3	CAPD管理・輸液管理(中心静脈栄養・インスリン自己注射管理)管理料・使用した物品の廃棄					講義	宮下宝子		
		4	在宅酸素療法(HOT) 管理指導 閉塞性肺疾患と呼吸法					講義/演習	増田幸子		
		5	在宅酸素療法(HOT)NPPV 管理					講義/演習	中沢弥生(帝人)		
		6	気管切開管理・気管カニューレ管理・吸引の物品管理 排痰ケア含む					講義	宮下宝子		
		7	人工呼吸療法(管理)HMV TPPV・NPPV管理					講義	宮下宝子		
		8	試験						宮下宝子		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	石田千絵他 石田千絵他	ナーシンググラフィカ ナーシンググラフィカ	地域・在宅看護論① 地域・在宅看護論②	地域療養を支えるケア 在宅療養を支える技術						メディカ出版 メディカ出版	
参考図書	押川真喜子監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研										

授業科目	地域・在宅看護論 暮らしを支える看護Ⅲ		単位	2単位	時間数	30時間	講義時期	2年次後期	担当者	増田 白石 市川 廣住 大石 高橋 米澤 織田 飯田	
									職種	医師 作業療法士 薬剤師 保健師 介護支援専門員 専任教員	
授業のねらい・目標	<p>様々な事例から地域でくらす人々とその家族、その取り巻く環境と状況に応じた看護の実際を学ぶ。療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について理解する。地域でくらす人々の状況を知り、様々な職種がどのように支援しているのか、そして、多職種連携・協働の必要性を学び、関連機関・施設の役割を含め理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で療養する人とその家族の看護に必要なアセスメントについて、自己の考えを持つことができ、他者の意見を参考に考えることができる 2. 事例から訪問時の観察の視点、判断、看護を検討し、地域でくらす人々への看護の視点を理解することができる 3. 学生間での協同学習を通して、学びを共有することができる 4. 継続看護の必要性を理解することができる 5. 地域でくらす療養者、障害者(児)、要介護者、要支援者、今看護を必要とする人々の生活状況と課題を把握することができる 6. 多職種の役割を理解し、多職種間での連携と協働の必要性を理解することができる 										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当			
		1	ケアマネジメント 社会資源をどの様に結び付けるのか 多職種多機関連携について考える				講義/グループワーク	増田幸子			
		2	社会資源の活用 地域支援事業などの活用の実際				講義/グループワーク	増田幸子			
		3	地域でくらす人とその家族をとらえるための情報収集の視点(観察の視点とアセスメント)				講義	増田幸子			
		4	訪問看護演習				講義/演習	増田幸子			
		5	訪問看護演習				講義/演習	増田幸子			
		6・7	演習まとめ				講義/演習	増田幸子			
		8	障害者の理解をする「障害を持った人が自立して生活するために必要な支援とは」社会資源(施設の役割含め)制度・多職種連携の必要性について				講義	市川武 (空と大地と)			
		9	介護支援専門員の役割と実際 訪問入浴に携わる看護師・介護士の役割と実際/介護支援専門員の活動の実際 多職種連携をどう考えるか 訪問入浴の実際				講義/演習	廣住友佳 (セントケア)			
		10	地域での作業療法士の役割と看護師との連携について 連携協働について作業療法士が考える事 リハビリテーションの実際				講義	大石雄介 (アポロン伊太)			
		11	地域でくらす高齢者を支える施設の中での看護の役割と多職種との連携協働について学ぶ				講義	高橋里佳 (エコトープ)			
		12	地域における高齢者支援の中で、総合相談窓口である地域包括支援センターの関り等から、多職種の活動連携を学ぶ				講義	米澤美晴 (包括ケア推進課)			
		13	病院と地域をつなぐために必要な看護の役割を理解する(活動の実際を学ぶ。継続看護の必要性を理解する) 地域連携室 退院支援看護師の病院内での活動の実際を学ぶ				講義	看護師 (島田市立総合医療センター退院支援 看護師)			
		14	療養の場の移行に伴う看護 医師の地域での活動の実際				講義	白石好 医師			
		15	療養の場の移行に伴う看護 薬剤師の地域での活動の実際				講義	横山啓子 薬剤師			
評価方法	小テスト、講義参加態度やグループワークの参加度、レポート課題での評価										
履修上の注意	1回の外部講師の講義に関しては必ず聴講すること。講義終了後学びを整理用紙にまとめること。事例展開は個人学習とグループワークを行い、学びを深めていきます。講義前に疾患や制度に関する学習をし、参加してください。その都度、学習内容を自己評価・他者評価します。										
テキスト	石田千絵他 石田千絵他	ナーシンググラフィカ ナーシンググラフィカ	地域・在宅看護論① 地域・在宅看護論②	地域療養を支えるケア 在宅療養を支える技術				メディカ出版 メディカ出版			
参考図書											

授業科目	成人看護学 原論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	大澤 恵実子	
								職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>成人期における生理的諸機能、心理的発達、生活形態、社会的役割を理解し、成人期の疾病の特徴をとらえ、保健医療を通して、健康の保持増進の看護活動の概要を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる 2. 成人期における保健医療の現状と動向について学び、疾病の予防、健康の保持増進のシステムを理解できる 3. 各健康のレベルに応じた個人または集団に対する健康教育の実際を理解できる 4. 成人期における疾病の特徴を知り健康問題が個人の社会・家庭生活に及ぼす影響を理解できる 									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者		
		1	成人とは				講義	大澤		
		2	家族とは				講義	大澤		
		3	仕事とは				講義	大澤		
		4	労働基準法・労働安全衛生法・労働三管				講義	大澤		
		5	健康的な生活をしているか				講義	大澤		
		6	「成人期にある人の健康」の講義とグループワーク				演習	大澤		
		7	「成人期にある人の健康」のグループワークの発表				講義	大澤		
		8	ヘルスプロモーション				演習	大澤		
		9	ヘルスプロテクション				講義	大澤		
		10	ストレス				講義	大澤		
		11	セルフケア				講義	大澤		
		12	「病みの軌跡」について「関係を結ぶ」				講義	大澤		
		13	AYA世代について考える DVD聴講・グループワーク				講義	大澤		
		14	成人の自己決定・成人看護を充実させる実践的環境				講義	大澤		
		15	試験・発表				演習	大澤		
評価方法	筆記試験、グループワークへの参加態度により総合的に判断する									
履修上の 注意	一般でも使われるようになった用語(例:ヘルスプロモーション、コンプライアンス)が頻回に出てくる場合があります。用語の概念を良く覚えること。									
テキスト	林直子 看護学テキスト NICE成人看護学概論 南江堂									
参考図書	「国民衛生の動向」後日配布 茂野香おる 系統看護学講座 専門 成人看護学概論 医学書院 安酸史子 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版									

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅰ がん看護		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次後期	担当者	増田 幸子 他
									職種	専任教員 看護師
授業の ねらい ・目標	<p>がん看護は、がんと診断された人およびその家族を対象に、がんおよび治療からもたらされる全人的苦痛を緩和し、がんと共にその人らしい生活や人生を送ることができるように、根拠に基づいた看護実践を行うことが求められる。また、予防や早期発見・早期治療につながるようがん啓発教育を実践することでもある。そのための看護の基礎となる知識を習得し、今後の看護実践に活かしていく方法を学ぶ。</p> <p>1. 人々にとってのがんという病気を理解できる 2. がん医療の発展と治療を理解できる 3. がんの治療による生活への影響を理解できる</p>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者	
		1	悪性腫瘍について、診断と治療					講義、演習	増田	
		2	現在の社会情勢と統計					講義、演習	増田	
		3	がん医療における倫理					講義、演習	増田	
		4	治療の種類とその看護(化学療法・免疫療法)					講義、演習	外部講師	
		5	治療の種類とその看護(手術療法・放射線療法 他)					講義、演習	増田	
		6	がん患者の療養の場における看護 1					講義、演習	増田	
		7	がん患者の療養の場における看護 2 (がんサバイバーシップとソーシャルサポートを含む)					講義、演習	増田	
		8	試験						増田	
評価方法	筆記試験(レポート課題・演習態度により総合的に判断する。)									
履修上の 注意										
テキスト	小松浩子 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 任和子 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 大橋健一 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 病理学 医学書院									
参考図書	「国民衛生の動向」後日配布 鈴木久美 看護学テキストNICE がん看護 南江堂 藤野彰子監修 看護技術ベーシック 医学芸術新社 平山正実 新体系看護学第35巻 生と死の看護論 メヂカルフレンド社									

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅱ リハビリテーション看護	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	松田 千春 奈木 志津子 松林 洋輝 佐野 直子 鳥居 智子
								職種	専任教員 認定看護師 看護師 言語聴覚士
授業のねらい・目標	<p>回復期とは、疾病や外傷、手術などによって生命の危機状況にある急性期を脱し、身体の治癒過程が回復に向かって進行している時期である。身体侵襲を受けた対象者の身体的機能が安定した状態から回復に向かう過程において、リハビリテーション対象者の援助に必要な基礎的知識を学ぶ</p> <p>1. 回復期にある対象を理解し、回復期にある成人がその人らしい自立した生活を再構築するためのプロセスを学ぶ</p> <p>2. 疾患や障害によって変化したQOLを再構築するために必要な看護支援方法を学ぶ</p>								
授業内容および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	リハビリテーションの歴史と概念(ICF・チーム医療)				講義	松田	
		2	リハビリテーション看護の対象理解を深めるための理論・概念①				講義・GW	松田	
		3	リハビリテーション看護の対象理解を深めるための理論・概念②				講義・GW	松田	
		4	療養生活を支える家族への援助				講義	松田	
		5	脳卒中による運動機能障害のある人のへ看護				講義	松林	
		6	高次脳機能障害のある人のへ看護				講義	松林	
		7	運動機能障害のある人の看護(脊髄損傷)				講義	佐野	
		8	運動機能障害のある人の看護(大腿骨頸部骨折)				講義	佐野	
		9	摂食嚥下障害のある人への看護				講義	鳥居	
		10	摂食嚥下障害のある人への看護				講義	鳥居	
		11	循環器に障害を持つ人のへ看護(心筋梗塞)				講義	松田	
		12	循環器に障害を持つ人のへ看護(ペースメーカー・心電図モニター)				講義・演習	松田	
		13	身体の一部を喪失した人への看護(人工肛門・ストマ管理)				講義	奈木	
		14	身体の一部を喪失した人への看護(乳房切除後)				講義	奈木	
	15	試験(45分)・まとめ					松田		
評価方法	筆記試験(各講師20点配分×5名=100点)								
履修上の注意	複数の講師で1単位の修得となるため各講義終了後、学習を整理しておくこと。筆記試験は5名分をまとめて実施する。								
テキスト	原三紀子 系統看護学講座 別巻リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学 脳神経・循環器・消化器・運動器疾患 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院								
参考図書	山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 茂野香おる 系統看護学講座 専門 成人看護学概論 医学書院 安酸史子 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版								

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅲ セルフマネジメント		単位	看護 方法 Ⅲで 1単位	時間数	23時間	講義時期	2年次前期	担当者	小沼 由美 河守 悦子	
									職種	専任教員 認定看護師	
授業の ねらい ・目標	<p>慢性の病いは、長期的にわたって疾病の管理をしながら社会生活を継続させなければならない。疾病のコントロールができないと、病状は悪化し、生命の危機的状態に至る場合もある。何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて、自分らしく生きていくかを支援することは、看護の大きな役割となる。セルフマネジメントの基本的な考え方を学び、今後の看護実践に活かしていく方法を学ぶ。</p> <p>1. セルフケアマネジメントを必要とする状態にある慢性病者の病態・症状・治療法を理解し、看護に結び付けて説明できる</p> <p>2. 慢性病とともに生きる成人の身体・心理・社会関係に与える影響を理解し、療養法を生活に取り入れ実践していくための看護援助が理解できる</p> <p>3. セルフマネジメントのための対象理解やセルフマネジメントを支える理論について学ぶ</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者			
	慢性 期に ある 患者 の 看護	1	慢性の病いとともに生きる人の理解				講義	小沼			
		2	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		3	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		4	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(簡易血糖測定含む)				講義 グループワーク	小沼			
		5	慢性腎臓病とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		6	透析療法が必要な人のセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		7	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援				講義	河守			
		8	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援				講義	河守			
		9	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援				講義	河守			
		10	肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援				講義	小沼			
		11	セルフマネジメントを支える理論				講義	小沼			
	12	試験(45分)					小沼				
評価方法	筆記試験、課題提出、グループワーク参加度										
履修上の 注意	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援については外部講師の講義 筆記試験は一緒に行う										
テキスト	鈴木久美 看護学テキストNICE 慢性期看護 南江堂										
参考図書	系統看護学講座 専門 成人看護学3循環器、成人看護学5消化器・内分泌、成人看護学6内分泌・代謝、成人看護学8腎・泌尿器, 医学書院 安酸史子 ナーシング・グラフィカ 成人看護学3 セルフマネジメント メディカ出版 野川道子 看護実践に活かす中範囲理論 メヂカルフレンド社 佐藤栄子 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研										

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅲ 感染症看護		単位	看護方法Ⅲで 1単位	時間数	7時間	講義時期	2年次	担当者	松田 千子
									職種	認定看護師
授業のねらい・目標	<p>感染症とはウイルスや細菌あるいは真菌などの微生物が体内に増殖することによって生じるさまざまな病気の総称である。感染症は集団発生することがあり、ひとたび集団発生が起こった場合、その発生場所のみならず地域・社会にも脅威を与える。感染症を予防し、感染症に罹患し複雑な問題を抱える患者、その家族に対する看護について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染により障害を受けた患者と家族を理解できる 2. 感染症が成立するための条件やそれを予防するための方法を学ぶ 3. 感染による障害の特徴、症状、治療、処置、検査時の看護を学ぶ 									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者	
	受感染に患者の障害看護を	1	感染症とは、感染の成立、感染症の病態生理・症状(肝炎・結核・敗血症・インフルエンザ・MRSAほか)					講義	松田	
		2	感染症疾患の理解(診断・検査、感染症の治療)					講義	松田	
		3	感染経路別予防策、職業感染予防、サーベイランス、予防接種					講義	松田	
	4	試験(45分)						松田		
評価方法	筆記試験									
履修上の注意										
テキスト	岩田健太郎 系統看護学講座 専門 成人看護学11アレルギー・膠原病・感染症 医学書院									
参考図書										

授業科目	成人看護学 看護方法IV クリティカルケア	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	塚田 佳代美 松田 千春
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>人の身体には侵襲に対してホメオスタシス(恒常性)を保とうとする機能が備わっている。何らかの医療的措置を講じないと健康破綻をきたし生命の危機に陥る状態を急性状態とよび、この時期を急性期という。この生命の危機状態にある人とその家族の特徴を身体的、心理的、社会的側面から理解する。また、救命救急処置を必要とする人とその家族の看護、手術を受ける患者の術前から術後の看護を基礎的知識を踏まえて、それぞれの状態に合わせた看護実践の方法について学ぶ。</p> <p>急性期看護を「救急看護」「周手術期看護」の2分野で授業構成する</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象とその家族の特徴とその支援を身体的、心理的、社会的側面から学ぶ 救急医療の特徴と救急看護の役割を学ぶ 救急治療を必要とする対象の状況に応じた看護の視点を学ぶ 集中治療の場で行われる看護について学ぶ 消化器外科を中心とした術前・術中・術後の周術期の看護を学ぶ 事例展開を通して、技術演習を行い実践能力を高める 								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
	救急看護	1	急性期、急性期看護の概念、急性の状態にある成人期の患者と家族の特徴と看護				講義	塚田	
		2	救急医療の特徴と救急看護の役割、緊急性と重症度のアセスメント				講義	松田	
		3	重症患者の系統的アセスメント、心肺停止状態への処置				講義	松田	
	集中治療	4	重症患者の看護(外傷、熱傷、ショック、急性中毒)				講義	松田	
	手術を受ける患者の看護	5	麻酔・手術侵襲と生体反応				GW	塚田	
		6	周手術期とは、術前の看護(不安のアセスメントと術前オリエンテーション)				講義	塚田	
		7	術前看護(術後合併症のリスクアセスメント)				講義	塚田	
		8	手術中の看護(手術中の安全管理、手術体位による影響と看護)				講義	塚田	
		9	手術中の看護(麻酔による影響と援助:循環管理・体温管理・呼吸管理、退出時の看護)				講義・演習	塚田	
		10	術後の看護(手術当日・1日目以降の観察と看護、ドレーン挿入部の処置および管理、疼痛緩和)				講義・演習	塚田	
		11	術後合併症の観察と予防援助①				講義・GW	塚田	
		12	術後合併症の観察と予防援助②				講義・GW	塚田	
		13	腹腔鏡下胃下垂全摘術後1日目の観察とアセスメント				演習	塚田	
		14	術後の看護(早期離床、日常生活の援助、食事・退院支援)				講義	塚田	
		15	試験・まとめ					塚田・松田	
単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験、講義、グループワーク、演習への参加態度により総合的に判断する。								
履修上の 注意	<p>授業資料は実習に活用できるようにファイルに整理を行うこと。</p> <p>追加の課題学習は、授業資料とともに随時整理を行うこと。</p> <p>課題については提出期限を厳守すること。(時間に遅れた場合は減点の対象となる)</p> <p>グループワークには積極的に参加すること</p>								
テキスト	<p>矢永勝彦 系統看護学講座 別巻1臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>林 直子 NICE 成人看護学 急性期看護1 南江堂</p> <p>佐藤まゆみ NICE 成人看護学 急性期看護2 南江堂</p> <p>井上智子 パーフェクト臨床実習ガイド I 成人看護 I 照林社</p>								
参考図書	<p>中島恵美子 これならわかる 術前・術後の看護ケア ナツメ社</p> <p>竹内登美子 高齢者と成人の周手術期看護 2・3 医歯薬出版株式会社</p> <p>石塚睦子 よくわかる周手術期看護 学研</p> <p>山本千恵 周術期看護 はじめの一步 照林社</p>								

授業科目	成人看護学 看護方法V エンド・オブ・ライフ・ケア		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次後期	担当者	増田 幸子 織田 雅子
									職種	専任教員 認定看護師
授業のねらい・目標	<p>終末期は死を意識し、様々な症状による苦痛や不安が多い。苦痛や不安を軽減し、その人にあったQOLを高める看護が求められる。緩和ケアの基本を学びつつQOLを高めるための看護の実際を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象と家族の特徴を理解し、おこりうる健康問題を理解できる 2. 終末期にある看護の対象の特徴を理解し、経過に応じた看護を学ぶことができる 3. 終末期にある対象の症状、治療、処置時の看護方法を学ぶことができる 4. 緩和ケアにおける患者・家族への看護について学ぶことができる 									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者	
		1	終末期とは					講義	増田	
		2	情報の伝え方とこれからの考え方についての看護					講義	織田	
		3	4側面の理解(身体的、社会的側面)					講義	増田	
		4	4側面の理解(精神的、スピリチュアル)					講義	増田	
		5	全人的にとらえた看護の実際					講義	増田	
		6	看護の実践方法					講義、演習	増田	
		7	評価と修正方法について					講義	増田	
	8	試験						増田		
評価方法	筆記試験(80点)、課題提出状況(20点)									
履修上の注意	疾患・治療・検査などは理解を深めておいてください。看護過程を活用します。復習しておいてください。									
テキスト	梅田恵, 看護学テキストNICE 緩和ケア, 南江堂 鈴木久美, 看護学テキストNICE がん看護, 南江堂 任和子, 系統別看護学講座, 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院									
参考図書	藤野彰子監修, 看護技術ベーシック, 医学芸術新社 平山正実, 新体系看護学第35巻 生と死の看護論, メヂカルフレンド社									

授業科目	老年看護学 原論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	押尾智子	
								職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	老化に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解する 高齢者を取り巻く社会状況と諸問題について学ぶ。高齢者に関わる保健医療福祉システムを学ぶ 老年看護の意義、機能や役割について知る									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当		
		1	老年看護学の概念 老いるとは				講義	押尾		
		2	疑似老人体験				講義	押尾		
		3	加齢に伴う身体・心理・社会的側面				講義	押尾		
		4	加齢に伴う身体・心理・社会的側面				講義	押尾		
		5	超高齢社会の統計的輪郭				講義	押尾		
		6	高齢者の健康と暮らしの現状				GW	押尾		
		7	高齢者の健康と暮らしの現状				GW	押尾		
		8	現代社会における高齢者の問題を理解する				講義	押尾		
		9	超高齢社会における保健医療福祉の動向				講義	押尾		
		10	超高齢社会における保健医療福祉の動向				講義	押尾		
		11	高齢者の権利擁護 虐待・拘束 倫理				講義	押尾		
		12	高齢者の権利擁護 虐待・拘束 倫理				講義	押尾		
		13	老年看護の成り立ち 看護理論				講義	押尾		
		14	高齢者の住まい 施設				講義	押尾		
		15	テスト まとめ					押尾		
評価方法	筆記試験									
履修上の 注意	疑似老人体験や夏季休暇中の課題にはレポート提出があります。期限を厳守すること。									
テキスト	北川公子ほか、系看、専門分野 老年看護学, 医学書院 鳥羽研二ほか、系看、専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院 国民衛生の動向 /厚生労働統計協会(8月刊行)									
参考図書	高齢社会白書(令和6年度版)内閣府 鈴木隆雄,超高齢社会の基礎知識,講談社新書									

授業科目	老年看護学 看護方法 I		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	藪崎優子 山本利恵子 松田千春	
									職種	認定看護師 専任教員	
授業の ねらい ・目標	高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえ、対象のとらえ方やアセスメントの視点、対象に合わせた看護の視点を学ぶ										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	日常生活を支える基本的活動					講義	藪崎		
		2	転倒のアセスメントと看護・廃用症候群のアセスメントと看護					講義	藪崎		
		3	食事食生活アセスメントと看護					講義	藪崎		
		4	排泄のアセスメントと看護					講義	藪崎		
		5	生活リズムを整える看護					講義	藪崎		
		6	清潔のアセスメントと看護					講義	藪崎		
		7	セクシュアリティと看護					講義	藪崎		
		8	高齢者のヘルスアセスメント					講義	松田		
		9	身体に加齢変化とアセスメント ロコモティブシンドローム/フレイル/サルコペニア					講義	松田		
		10	健康逸脱からの回復を促す看護高齢者に見られる身体 症状とアセスメント(痛み)					講義・GW	松田		
		11	健康逸脱からの回復を促す看護高齢者に見られる身体 症状とアセスメント(発熱/脱水)					講義・GW	松田		
		12	健康逸脱からの回復を促す看護高齢者に見られる身体 症状とアセスメント(かゆみ/倦怠感/浮腫)					講義・GW	松田		
		13	褥瘡予防と対処					講義	山本利		
		14	褥瘡予防と対処					講義	山本利		
		15	テスト まとめ						藪崎・松田		
評価方法	筆記試験、授業の参加態度など総合的に評価します。										
履修上の 注意	老年看護学実習に向けて老年用アセスメントガイドを作成します。講義と並行して準備していくこと。 詳細は1回目の講義の中で説明します。										
テキスト	北川公子ほか, 系看, 専門分野 老年看護学, 医学書院										
参考図書	奥野茂代・大西和子編集:「老年看護学 概論と看護の実践」ヌーベルヒロカワ 山田律子・井出訓編集:「生活機能からみた老年看護過程」医学書院 野溝明子著:「高齢者の解剖生理学気持ちに寄り添う仕事をするための実践知識」秀和システム										

授業科目	老年看護学 看護方法Ⅱ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次後期	担当者	木下司紗 松林洋輝 小沼由美 田井中正志	
									職種	認定看護師 専任教員 外部講師	
授業の ねらい ・目標	健康障害を抱え生活する高齢者への看護、健康逸脱からの回復を促す高齢者への看護を理解する 健康障害を抱え生活する高齢者を支える家族について理解する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	認知症のある患者の看護					講義	木下		
		2	認知症のある患者の看護					講義	木下		
		3	せん妄・うつ病のある患者の看護					講義	木下		
		4	老年の疾患の特徴、入院、薬物療法					講義	小沼		
		5	手術療法(加齢による影響)					講義	小沼		
		6	手術療法・白内障・人工肛門					講義	小沼		
		7	リハビリテーションを受ける高齢者の看護					講義	松林		
		8	老年期のエンドオブライフケア①					講義	小沼		
		9	老年期のエンドオブライフケア②					講義	小沼		
		10	高齢者のヘルスプロモーション					講義	小沼		
		11	高齢者のリスクマネジメント					講義	小沼		
		12	身体疾患のある高齢者の看護					講義	小沼		
		13	レクリエーション療法					講義	田井中		
		14	レクリエーション療法					講義	田井中		
		15	テスト・まとめ						小沼		
評価方法	筆記試験・グループワークの参加度・事前事後学習などのレポートで総合的に判断する										
履修上の 注意											
テキスト	北川公子ほか, 系看, 専門分野 老年看護学, 医学書院										
参考 図書											

授業科目	老年看護学 看護方法Ⅲ	単位	1単位	時間数	20時間	講義時期	2年次後期	担当者	小沼由美
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>教育用電子カルテを利用し看護の思考過程を学ぶことで、臨地実習に活かしていくことができる基礎知識を養う。</p> <p>1, 高齢者の特徴を踏まえ、対象を理解するための考え方を学ぶ</p> <p>2, 対象のADLの状況や健康レベルに応じた看護の提供方法を検討し、対象に合わせた援助技術を理解することができる</p> <p>1) 事例の情報をヘンダーソンの枠組みを用いて整理し、対象の加齢変化やADLの状況、疾患による健康レベルを意識した上で、基本的欲求を解釈・分析することができる</p> <p>2) 清潔に関する看護問題を挙げ、看護計画を立案することができる</p> <p>3) 高齢者の特徴をふまえ、対象者のADLの状況や健康レベルに応じ清潔援助の方法を考えることができる</p> <p>4) 模擬患者に対して看護援助を実践し、全体で意見交換後に行った技術を振り返ることができる</p> <p>5) 看護サマリーの書き方を理解し記入ができる</p>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当	
		1	事例検討:対象を捉えるために必要な情報収集				講義 グループワーク	小沼	
		2	事例検討:情報からアセスメント				講義 グループワーク	小沼	
		3	事例から高齢者の特徴を考える				講義	小沼	
		4	事例検討:関連図で対象者の全体像を捉え、看護計画立案				講義 グループワーク	小沼	
		5	技術検討:対象のADLの状況や健康レベルに応じた看護を考える				グループワーク	小沼	
		6	発表 対象に合わせた援助技術				演習	小沼	
		7					小沼		
		8					小沼		
		9	援助技術の振り返り・まとめ				演習 講義	小沼	
	10	看護サマリーの書き方				講義	小沼		
評価方法	課題の提出やグループワーク参加状況で総合的に評価をします。参加度/課題内容								
履修上の 注意	期限内に提出できなかった課題については、採点除外とします。 提出期限をきちんと守ってください。								
テキスト	北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院								
参考 図書	奥野茂代・大西和子編集 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ヌーベルヒロカワ 正木治恵編集 老年看護学実習ガイド 照林社								

授業科目	小児看護学 原論		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次	担当者	赤堀 夏海
									職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>小児各期の特徴を理解し、成長・発達について機能的側面や社会的側面から学び、小児を取り巻く社会・環境・保健・福祉・医療制度の仕組みを理解する</p> <p>1. 小児各期における身体発育・精神発達および発達課題を理解する</p> <p>2. 小児看護の機能と役割を理解する</p> <p>3. 激しく変化する社会の中で、小児がどのような問題を持ち日常生活を営んでいるかを理解する</p> <p>4. 小児を取り巻く保健・医療・福祉の制度と活用について学ぶ</p>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者	
		1	小児医療・看護の歴史的変遷と歴史的位置づけ 小児と家族の諸統計 小児医療・看護のめざすもの					講義・GW	赤堀	
		2	子どもの成長・発達 成長/発達とは 成長・発達の進み					講義	赤堀	
		3	" 成長・発達の評価 影響因子					講義	赤堀	
		4	" 学童期 思春期 学校保健 DVD鑑賞80「目で見る子どもの保健」					講義・GW	赤堀	
		5	子どものトピックス 小児看護における倫理 小児看護 の課題					講義・GW	赤堀	
		6	現代の母子衛生 医療費 予防接種					講義・GW	赤堀	
		7	(協同授業)現代社会における小児看護の課題 セミナー グループワーク					講義・GW	大澤・赤堀 川合・徳山	
		8	試験						赤堀	
	単元ごとは順不同です。									
評価方法	<p>筆記試験80点</p> <p>子どものトピックス課題20点</p> <p>協同授業レポート・グループワーク参加度10点</p>									
履修上の 注意	<p>自分の子ども時代・成育歴などを振り返ることがあります。</p> <p>第7回目は母性看護学との協同授業となります。別途で要綱を配布します。</p>									
テキスト	<p>奈良間美保他, 系統看護学講座 専門 小児看護学(1)小児看護学概論, 医学書院</p> <p>山元恵子監, 写真でわかる小児看護技術アドバンス, インターメディカ</p>									
参考図書	<p>奈良間美保他, 系統看護学講座 専門 小児看護学(2)小児看護学各論, 医学書院</p>									

授業科目	小児看護学 疾患と治療		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	武藤庫参 那須裕郷 高梨浩一郎 他	
									職種	医師	
授業の ねらい ・目標	健康障害を持つ小児の看護が実践できるために、専門基礎知識として小児の固有な症状や疾患について学ぶ 1. 小児によく見られる疾患の病態生理について理解する 2. 小児によく見られる疾患の検査・治療について理解する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	染色体遺伝					講義	武藤		
		2	内分泌・代謝					講義	武藤		
		3	神経疾患①					講義	武藤		
		4	神経疾患②					講義	武藤		
		5	血液・造血器疾患、悪性腫瘍					講義	那須		
		6	感染症(細菌・ウイルス)					講義	那須		
		7	発達障害(精神疾患含む)					講義	那須		
		8	呼吸器疾患					講義	高梨		
		9	循環器疾患					講義	高梨		
		10	消化器疾患					講義	高梨		
		11	救急・外傷					講義	高梨		
		12	新生児					講義	医師		
		13	アトピー性皮膚炎					講義	医師		
		14	アレルギー疾患					講義	医師		
		15	腎・泌尿器					講義	医師		
		16	試験						武藤・那須 高梨 他		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意											
テキスト	奈良間美保他 系統看護学講座 専門 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 奈良間美保他 系統看護学講座 専門 小児看護学[2]小児看護学各論 医学書院										
参考図書	小田清一編 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 小林京子編 新体系 看護学全書 小児看護学概論 小児保健 小児看護学① メヂカル フレンド社 小山真理子編 看護学基礎テキスト 看護の対象 日本看護協会出版会										

授業科目	小児看護学 看護方法Ⅰ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	大澤 恵実子	
									職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>小児の各時期の特徴を理解し、小児の成長発達を育むための関わりを学ぶ。また、日常生活の中で疾病を罹患した児と、その家族に対する看護について学ぶ。(成長発達を育む看護)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児が健康な生活を営むための保健・看護について学ぶ 2. 健康障害を持つ小児の特徴を踏まえ、小児看護の目的と役割を理解する 3. 健康障害を持つ小児とその家族を看護過程を用いて把握し、問題解決に向けて看護を展開する能力を養う 										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	母子手帳を通して成長を見ていこう！					講義	大澤		
		2	1か月健康診査					講義	大澤		
		3	3～4か月児健康診査 首のすわり・児の反応 目・耳					講義	大澤		
		4	6～7か月児健康診査 寝返り・ひとり座り・離乳食・口の中・目					講義	大澤		
		5	9～10か月健康診査 ハイハイ・つかまり立ち・離乳・歯の生え方					講義	大澤		
		6	1歳児健康診査 歯磨き					演習	大澤		
		7	1歳6か月児健康診査 目の異常・予防接種・目・耳 離乳の完了					講義	大澤		
		8	2歳児健康診査 2語文・肉や繊維のあるものをたべるか 栄養状態					講義	大澤		
		9	3歳児健康診査 名前が言える・フッ素の塗布・遊び友達がいるか					講義	大澤		
		10	4歳児健康診査 おしっこが一人でできる衣服の着脱・ケンケンができる 5歳児健康診査 うんちが一人でできる・でんぐりがえしができる 6歳児健康診査 第一大臼歯が生えたか プレパレーション・ディスクラクションの必要性					GW	大澤		
		11	さくらんぼ保育園訪問Aチーム0～2歳児 Bチーム遊び企画作成					演習	大澤		
		12	さくらんぼ保育園訪問Aチーム遊び企画作成 Bチーム0～2歳児					演習	大澤		
		13	さくらんぼ保育園訪問Aチーム遊びの展開(3～5歳児) Bチームペーパーペイシエント『事例ネフローゼの子ども』 情報分類とアセスメント					演習	大澤		
		14	さくらんぼ保育園訪問Bチーム遊びの展開(3～5歳児) Aチームペーパーペイシエント『事例ネフローゼの子ども』 情報分類とアセスメント					演習	大澤		
		15	試験と『事例ネフローゼの子ども』の看護展開の共有						大澤		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験(演習参加で受験資格あり) 課題提出										
履修上の 注意	ハサミ・のり・色ペンなどの持ち物を依頼することがあります。 保育園への訪問等では爪、頭髪、アクセサリ等節度を考え、服装を整え参加すること。										
テキスト	奈良間美保他 系統看護学講座 専門 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護 総論 医学書院 奈良間美保他 系統看護学講座 専門 小児看護学[2]小児看護学各論 医学書院 山元恵子監 写真でわかる小児看護技術 インターメディア										
参考図書	松平千佳編 プレイ・プレパレーション導入・実践の手引き 日総研										

授業科目	小児看護学 看護方法Ⅱ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	大澤 恵実子 増田 陽美	
									職種	専任教員 看護師	
授業の ねらい ・目標	健康障害を持つ小児と家族を理解し、どのような状態でも可能な限り成長発達を支え、個別的看護が実践できるための必要な知識・技術を修得する。(成長発達を支える看護) 1. 健康障害や入院が小児や家族に与える影響について理解する 2. 小児に特有な健康障害と看護について理解する 3. 小児に特有な基礎的知識および技術を習得する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	障がいのある子どもと家族との交流とボランティア参加					演習	大澤		
		2	ボランティア参加の体験発表					GW	大澤		
		3	疾病と障害のある子どもの看護					講義	大澤		
		4	小児のアセスメント(新生児のバイタルサイン、乳児の身体計測デモンストレーション)					講義	大澤		
		5	(協同授業)フィジカル・ヘルスアセスメント 実践・演習 新生児のバイタルサイン、乳児の身体計測					講義	大澤、赤堀 川合、徳山		
		6	看護過程 1					講義	大澤		
		7	看護過程 2					講義	大澤		
		8	新生児(低出生体重児)の看護					講義	増田		
		9	新生児の蘇生・入院中の子どもと家族の看護					講義	増田		
		10	在宅看護の必要な子どもと家族の看護					講義	増田		
		11	周手術期の子どもと家族の看護 症状を示す子どもの看護					講義	増田		
		12	終末期の子どもと家族の看護 症状を示す子どもの看護					講義	増田		
		13	事例を通してプレパレーション・ディストラクションを用い看護技術実践(与薬の看護)3・4・5歳					講義・演習	大澤		
		14	事例を通してプレパレーション・ディストラクションを用い看護技術実践(検査時の看護)3・4・5歳					講義・演習	大澤		
		15	試験とまとめ						大澤		
評価方法	筆記試験(演習参加で受験資格あり)										
履修上の 注意	第5回は母性看護学との協同授業です。技術演習になりますので事前準備、服装・持ち物など確認してください。										
テキスト	奈良間美保他 系統看護学講座 専門 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護 総論 医学書院 奈良間美保他 系統看護学講座 専門 小児看護学[2] 小児看護学各論 医学書院 山元恵子監 写真でわかる小児看護技術 インターメディア										
参考図書	中村綾美編 小児看護技術 小児看護学②ナーシンググラフィカ メディカ出版										

授業科目	母性看護学 原論		単位	1単位	時間数	30時間	講義期間	1年次	担当者	川合 陽子	
									職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>母性看護の対象を総合的に理解し、母性の生涯を通じた健康の保持・増進、疾病の予防、次世代育成のための看護の必要性を学び、実践の基礎をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性の概念、母性看護の対象と役割を理解する。 母性看護の対象を取り巻く環境を理解する。 母性のライフサイクル各期の特徴と健康問題を理解し、健康の保持・増進と疾病の予防に向けての看護の実際を学ぶ。 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常経過な経過を理解し、健康の保持増進と疾病の予防に向けての看護の実際を学ぶ。 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常経過を理解し、異常の早期発見に向けての看護の実際を学ぶ。 生命倫理について考える。 										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	母性とは 母性の身体的特性と心理・社会的特性					講義	川合		
		2	母子関係と家族発達 母性看護における主要概念(リプロダクティブヘルス/ライツ)					講義	川合		
		3	母性看護における主要な概念(ヘルスプロモーション、エンパワーメント)					講義	川合		
		4	母性看護の考え方・あり方、Women Centerd Care、Family Centerd Care、母性看護の対象とは					講義	川合		
		5	Sexality(セックスとジェンダー、人間の性行動の特徴、性反応、性の多様性)					講義	川合		
		6	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状(母性看護の変遷、母性看護に関する施策・法律)					講義	川合		
		7	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状(母子保健統計)					講義	川合		
		8	母性のライフステージ各期の特徴と看護:思春期の身体的、心理・社会的特徴					講義	川合		
		9	母性のライフステージ各期の特徴と看護:思春期の健康問題と看護(性感染症・月経困難症)					講義	川合		
		10	母性のライフステージ各期の特徴と看護:思春期の健康問題と看護演習(保健指導・ピアカウンセラー体験)					演習	川合		
		11	母性のライフステージ各期の特徴と看護:成熟期の身体的、心理・社会的特徴、健康問題と看護					講義	川合		
		12	母性のライフステージ各期の特徴と看護:更年期・老年期の身体的、心理・社会的特徴					講義	川合		
		13	母性のライフステージ各期の特徴と看護:更年期・老年期の健康問題と看護(更年期障害、尿失禁、骨粗しょう症)					講義	川合		
		14	(協同授業)現代社会における母性看護の課題 母性小児協同セミナー グループワーク					講義	川合・徳山 大澤・赤堀		
		15	試験 思春期の健康問題と看護演習					テスト	川合		
評価方法	筆記試験80点、思春期の健康問題と看護演習課題提出10点、母性・小児協同セミナーレポート・グループワーク参加状況10点、計100点で評価する。										
履修上の 注意	第14回は小児看護学との協同授業です。母性看護学原論2時間と小児看護学原論2時間の合わせて4時間の講義内容となります。母性看護学の対象はマタニティサイクルにある女性だけでなく、すべてのライフサイクルにある女性とその家族、そしてその対象の生活する地域社会をも含みます。広く母性を捉え、母性を取り巻く現状や社会情勢に目を向け、看護として今何をすべきかともに考えていきましょう。										
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1, 医学書院										
参考図書	国民衛生の動向										

授業科目	マタニティサイクルにおけるしくみ 正常経過		単位	マタニティサイクルにおけるしくみ 異常経過と合わせて 1単位	時間数	20時間	講義期間	2年次	担当者	徳山 今日子	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	妊娠・分娩・産褥期の正常経過を理解する。										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	正常経過	1	妊娠経過・生理					講義	徳山		
		2	母体の変化・胎児の特徴					講義	徳山		
		3	妊婦と胎児のアセスメント					講義	徳山		
		4	分娩の生理・分娩機序					講義	徳山		
		5	分娩の経過・産痛・分娩が胎児に及ぼす影響					講義	徳山		
		6	産褥の経過 退行性変化					講義	徳山		
		7	産褥の経過 進行性変化・産褥期の心理					講義	徳山		
		8	新生児の特徴					講義	徳山		
		9	新生児の機能					講義	徳山		
		10	試験（正常経過で45分、異常経過で45分）						徳山		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院										
参考図書	坂井 建雄 編, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学, 医学書院										

授業科目	マタニティサイクルにおけるしくみ 異常経過		単位	マタニティサイクルにおけるしくみ 正常経過と合わせて 1単位	時間数	10時間	講義期間	2年次	担当者	小松 孝之
									職種	医師
授業のねらい・目標	妊娠・分娩・産褥期の異常経過を理解する。									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者	
	異常経過	1	妊娠期の異常(感染症、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群)					講義	小松	
		2	妊娠期の異常(切迫流・早産、異所性妊娠、妊娠糖尿病)					講義	小松	
		3	分娩の異常(産道・娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害、胎児の付属物の異常、分娩損傷)					講義	小松	
		4	分娩の異常(異常分娩、分娩3期・直後の異常、異常出血)					講義	小松	
		5	産褥の異常(子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓、精神障害)					講義	小松	
	6	試験(45分)						小松		
評価方法	筆記試験									
履修上の注意										
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院									
参考図書	坂井 建雄 編, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学, 医学書院 末広 浩 編, 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 女性生殖器, 医学書院									

授業科目	マタニティサイクルにおける看護 正常経過の看護 異常経過の看護		単位	1単位	時間数	30時間	講義期間	2年次	担当者	堀 彩乃 徳山 今日子	
									職種	助産師 専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>マタニティサイクルにある対象者の健康の保持・増進と疾病の予防、異常の早期発見に向けての看護の実際を学ぶ。</p> <p>1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常経過な経過を理解し、健康の保持・増進と疾病の予防に向けての看護の実際を学ぶ。</p> <p>2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常経過を理解し、異常の早期発見に向けての看護の実際を学ぶ。</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	母性看護学とは 妊婦健康診査に関わる看護					講義	徳山		
		2	妊婦健康診査と保健指導					講義	徳山		
		3	妊娠期の保健指導					講義	徳山		
		4	妊娠期の異常経過の看護 1					講義	堀		
		5	妊娠期の異常経過の看護 2					講義	堀		
		6	分娩看護1～2期の看護について					講義	徳山		
		7	分娩看護3～4期の看護について					講義	徳山		
		8	分娩期の異常経過の看護					講義	堀		
		9	産褥期看護 退行性変化を促す看護					講義	徳山		
		10	産褥期看護 進行性変化を促す看護					講義	徳山		
		11	産褥期看護 セルフケアを促す看護					講義	徳山		
		12	産褥期の異常経過の看護					講義	堀		
		13	新生児看護 出生時の看護					講義	徳山		
		14	新生児看護 移行期の看護					講義	徳山		
	15	試験						堀・徳山			
評価方法	筆記試験とポートフォリオ状況で総合的に評価する。(正常看護70点・異常看護30点)										
履修上の 注意	ポートフォリオ作成を行う。期日には提出できるように計画的に進める。										
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院										
参考図書	堀内 成子 編, パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護, 照林社 仁志田 博司 編, 新生児学入門, 医学書院 平澤 美恵子 編, 写真でわかる母性看護技術, インターメディカ 有森 直子 編, 母性看護学Ⅱ 周産期各論, 医歯薬出版株式会社										

授業科目	マタニティサイクルにおける看護看護過程・看護技術	単位	1単位	時間数	15時間	講義期間	2年次	担当者	徳山 今日子
								職種	専任教員
授業のねらい・目標	母性看護学の看護展開に必要な思考と技術を身に着けることができる。 1. 産褥期・新生児期の看護過程が理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥期の看護技術が根拠をもって実施できる。								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	沐浴、妊婦の計測とレオポルド触診法、新生児のバイタルサイン測定 褥婦の観察(進行性・退行性変化)のデモンストレーション				講義	徳山	
		2	協同授業 沐浴、妊婦の計測とレオポルド触診法、新生児のバイタルサイン測定 褥婦の観察(進行性・退行性変化)、乳児の身体計測の演習				演習	川合・徳山 大澤・赤堀	
		3	産褥期の看護過程				講義	徳山	
		4	産褥期の看護過程の発表				講義	徳山	
		5	新生児期の看護過程				講義	徳山	
		6	新生児期の看護過程の発表				講義	徳山	
		7	看護過程のまとめ				講義	徳山	
		8	試験					徳山	
評価方法	1. ポートフォリオ作成 2. 妊娠・分娩・産褥期に関連する看護技術の演習結果 3. 筆記試験								
履修上の注意	第7回は小児看護学との協同授業(演習)です。小児看護方法Ⅱ2時間と合わせて4時間の演習となります。妊娠・分娩・産褥期・新生児・乳児に関連する看護技術の演習に向けて、各自練習を行い臨むこと。								
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院								
参考図書	堀内 成子 編, パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護, 照林社 仁志田 博司 編, 新生児学入門, 医学書院 平澤 美恵子 編, 写真でわかる母性看護技術, インターメディアカ 有森 直子 編, 母性看護学Ⅱ 周産期各論, 医歯薬出版株式会社								

授業科目	精神看護学 原論 精神看護 の概念		単位	精神看護学原 論で1単 位	時間数	20時間	講義時期	1年次後期	担当者	市川 貴志	
	職種	専任教員									
授業の ねらい ・目標	現代社会における心の健康の現状を知り、精神看護の必要性を学ぶ 1. 人間のこころの発達を基盤に、心の健康を保持増進するための援助について理解する 2. 精神看護の基本的な考え方を理解する 3. 社会変化に伴う精神保健医療福祉の変遷を理解する 4. 精神保健活動と看護の役割を理解する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	こころの健康とは何か こころの機能の特性とは					講義	市川		
		2	フロイトの精神分析、自我の防衛機制とは					講義	市川		
		3	精神看護の位置づけ、精神看護の対象と役割					講義	市川		
		4	精神保健医療の歴史					講義	市川		
		5	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律					講義	市川		
		6	精神保健医療福祉に関する法制度					講義	市川		
		7	心の健康に関する普及啓発、リエゾン精神看護、 患者の権利擁護					講義	市川		
		8	精神障害者における倫理を考える					講義	市川		
		9	精神保健福祉の動向と課題					講義、GW	市川		
		10	試験(田口・市川) 精神看護まとめ					試験・講義	市川		
	単元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験 60点/100										
履修上の 注意											
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社 峰村淳子他編著, よくわかる看護職の倫理綱領, 照林社										
参考図書											

授業科目	精神看護学 原論 精神保健		単位	精神看護学原論で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次後期	担当者	田口博之
									職種	医師
授業のねらい・目標	1. 人間の心の発達を基盤に心の危機状態を学習し、心の不健康の意味と援助を考える									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当		
		1	現代社会と精神保健的問題、社会病理現象(ドラッグ、ギャンブル依存症、自殺)				講義	田口		
		2	さまざまな社会病理現象(対象喪失の過程 依存症、周産期のメンタルヘルス、PTSD)				講義	田口		
		3	身体疾患を持つ人の心の健康				講義	田口		
		4	ターミナルケア 精神保健と社会				講義	田口		
		5	学校と精神保健 職場と精神保健 社会資源、災害時の精神保健				講義	田口		
	单元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験 40点/100									
履修上の注意										
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社									
参考図書										

授業科目	精神看護学 疾患と治療		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次前期	担当者	田口 博之	
									職種	医師	
授業の ねらい ・目標	<p>主な精神疾患の病因・病像・症状・経過・治療を学び、精神に健康問題をもつ人の看護の基礎とする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の概念及びその歴史的な位置付けを理解する 2. 正常な精神現象をふまえて、病的な精神症状や知覚障害を理解する 3. 精神科治療に必要な診断の基礎を理解する 4. 精神疾患の治療である薬物・精神・社会復帰療法を理解する 5. 主な精神疾患の症状の種類と特徴・診断・発病後の経過・治療時の留意点を理解する 										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	精神疾患の捉え方 総論(1)					講義	田口		
		2	精神疾患の捉え方 総論(2)					講義	田口		
		3	精神疾患の捉え方 総論(3)					講義	田口		
		4	てんかん、統合失調症					講義	田口		
		5	躁うつ病、物質依存症					講義	田口		
		6	心因性の障害、老年期精神障害					講義	田口		
		7	児童・青年期精神障害 リエゾン精神医学					講義	田口		
		8	試験						田口		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意											
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 岩崎 弥生他編集, 精神障害を持つ人の看護, メヂカルフレンド社										
参考図書	萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社										

授業科目	精神看護学 看護方法Ⅰ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	宮崎 杏子 渡邊 里佳 興津 のり子	
									職種	専任教員 精神保健福祉士 保健師	
授業の ねらい ・目標	精神看護の特徴と患者—看護師関係成立・発展のための方法を学ぶ 治療環境を理解し、安全管理の在り方や看護を学ぶ 1. 精神科における対象を理解する 2. 精神科におけるケアの方法を理解する 3. 看護の倫理と人権擁護を理解する 4. 入院環境と治療的アプローチを理解する 5. 精神保健活動とリハビリテーションについて理解する 6. わが国の精神保健福祉の動向と課題について理解する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	精神科におけるケアとは DVD鑑賞とレポート					講義	宮崎		
		2	DVD鑑賞とレポート					講義	宮崎		
		3	精神障害を持つ人と「患者—看護師関係」の構築					講義	宮崎		
		4	精神障害を持つ人とのコミュニケーション					講義	宮崎		
		5	精神障害を持つ人との関係の振り返り プロセスレコード					講義	宮崎		
		6	治療的アプローチ 薬物療法と看護					講義	宮崎		
		7	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮					講義	土屋		
		8	ECT、リハビリテーション療法と看護					講義	土屋		
		9	精神障害を持つ人の地域における生活への援助					講義	宮崎		
		10	精神障害を持つ人をケアする家族への支援					講義	土屋		
		11	司法精神医療と看護 災害時の精神看護					講義	宮崎		
		12	県立こころの医療センター見学					講義	宮崎・押尾		
		13	精神保健活動と精神保健福祉士としての役割					講義	渡邊		
		14	精神保健福祉の動向と事業の内容					講義	興津		
		15	テスト まとめ						宮崎		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験80点 課題レポート20点(講義前課題、プロセスレコード、県立こころの医療センター見学)										
履修上の 注意	開講前、事前課題あり 県立こころの医療センター見学 目的 精神に健康問題をもつ患者に適した療養生活の場と現状を学ぶ。 目標 (1)経過に応じた療養生活の場を見学し、療養環境を知る。 (2)精神に健康問題をもつ患者の社会復帰活動の現状を知る。 (3)精神保健福祉法をふまえ、人権を尊重した生活環境や病棟管理の在り方を考える。 見学実施後、レポート提出										
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 岩崎 弥生他編集, 精神障害を持つ人の看護, メヂカルフレンド社 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社										
参考図書											

授業科目	精神看護学 看護方法Ⅱ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	毛利 智果 玉井 ヨネ 吉永 洋子 塚本 伸一	
									職種	看護師 精神保健福祉士	
授業の ねらい ・目標	主な症状や疾患に対する看護の方法を学ぶ。患者の事例展開することによりアセスメント能力を養う 1. 精神に健康問題をもつ患者の主な症状の特徴と看護のあり方を理解する 2. 精神に健康問題をもつ患者の主な疾患看護を理解する 3. 精神に健康問題をもつ患者の主な検査・治療・看護を理解する 4. 精神に健康問題をもつ患者にとって、環境を治療的に整えることの重要性がわかる 5. レクリエーション療法の一環として、音楽療法の実践を学ぶ										
授業内容 および方法		回	主題					方法	担当		
	精神看護	1	コースガイダンス					講義	毛利		
		2	うつ病を持つ患者の看護					講義	玉井		
		3	双極性障害を持つ患者の看護					講義	玉井		
		4	長期入院者に関する看護					講義	玉井		
		5	身体疾患を合併している患者への看護					講義	玉井		
		6	自殺に関連した看護					講義	毛利		
		7	自死遺族の体験 セルフヘルプグループ					講義	吉永		
		8	統合失調症の事例演習①急性期看護					講義	毛利		
		9	統合失調症の事例演習②回復期看護					講義	毛利		
		10	統合失調症の事例演習③アセスメント検討					講義	毛利		
		11	統合失調症の事例演習④アセスメント統合					講義	毛利		
		12	統合失調症の事例演習発表⑤全体像検討					講義	毛利		
		13	統合失調症の事例演習発表⑥まとめ					講義	毛利		
	シレ ック ンリ 療エ 法	14	音楽療法					講義	塚本		
	15	音楽療法					演習	塚本			
単元ごとは順不同です。											
評価方法	事前課題20点 統合失調症の事例演習課題30点 レポート課題30点 試験20点										
履修上の 注意											
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 岩崎 弥生他編集, 精神障害を持つ人の看護, メヂカルフレンド社 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社										
参考図書	江口 重幸, ナラティブと医療, 金剛出版										

授業科目	看護管理と医療安全		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次後期	担当者	池田 佳子 鈴木 久美子	
									職種	看護部長 安全管理者	
授業のねらい・目標	<p>質の高い看護を提供するための看護管理の基本的なあり方と役割について学ぶとともに、看護・医療における「安全」を理解するための基礎知識を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の基本的なあり方と役割について理解できる 2. 医療事故の概念について理解できる 3. 看護者の責務としての「安全性の確保」が必要であることが理解できる 										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
	看護管理	1	看護のマネジメント 看護ケアのマネジメント					講義	池田		
		2	看護ケアのマネジメント					講義	池田		
		3	看護業務の実践 看護職のキャリアマネジメント					講義	池田		
		4	看護サービス・組織目標達成・人材マネジメント ・看護サービス提供の仕組みづくり					講義	池田		
		5	施設備品環境・物品・情報のマネジメント					講義	池田		
		6	マネジメントに必要な知識・技術					講義	池田		
		7	看護を取り巻く制度					講義	池田		
	医療安全	8	組織的な安全管理体制への取り組み					講義	鈴木		
		9	医療安全を学ぶことの大切さ					講義	鈴木		
		10	患者にかかわる業務における事故防止					講義	鈴木		
		11	注射業務と事故防止					講義	鈴木		
		12	療養上の世話と事故防止					講義	鈴木		
		13	KYT演習1					演習、G.W	鈴木		
		14	KYT演習2					演習、G.W	鈴木		
15		本試験、まとめ						池田・鈴木			
評価方法	テスト 演習・GWへの参加状況										
履修上の注意											
テキスト	上泉和子編 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院 川村治子編 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(2) 医療安全 医学書院										
参考図書											

授業科目	看護倫理	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	3年次前期	担当者	押尾 智子 宮崎 杏子
								職種	専任教員
授業の 目標 ねらい	<p>様々な看護場面を振り返り、倫理的課題を明確にし看護に必要な倫理的視点を養う。</p> <p>目標</p> <p>(1)実習での体験から気がかりな場면을想起し、他者にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>(2)学生間で意見交換し、他者の考えを知ることができる。</p> <p>(3)グループワークを通して倫理的課題を明確にすることができる。</p> <p>(4)看護者の倫理綱領について再認識し自己の姿勢を再度振り返り、今後の倫理的な態度や行動を考えることができる。</p>								
授業内容 および方法		回	主題				方法	担当	
		1	オリエンテーショングループワーク① 様々な場面の共有をしグループ検討				講義・演習	押尾・宮崎	
		2	場面共有 グループワーク②				GW	押尾・宮崎	
		3	グループワーク③全体発表会準備				GW	押尾・宮崎	
		4	全体発表会				演習	押尾・宮崎	
		5	全体発表会				演習	押尾・宮崎	
		6	事例から倫理的課題を検討する				GW	押尾・宮崎	
		7	全体発表会				演習	押尾・宮崎	
		8	全体発表会・まとめ <<45分>>				講義・演習	押尾・宮崎	
評価方法	課題提出、グループワーク・演習参加度								
履修上の 注意									
テキスト	赤林朗編, 入門医療倫理 I (改訂版), 勁草書房, 2017 峰村淳子他, 看護者の倫理綱領, 照林社, 2013								
参考図書									

授業科目	災害看護と国際看護		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	3年次前期	担当者	徳山今日子 小沼由美 湯沢晃司 川島 初美	
									職種	専任教員 認定看護師 看護師	
授業のねらい・目標	<p>災害の定義、災害時のための社会制度、災害医療・災害看護に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、災害時の看護活動の実際を知り、災害看護の役割と介入方法・課題について学ぶ。国際社会において諸外国との協力の必要性を理解し、自己の行動を考えるための基礎的能力を養う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義、社会制度について理解できる 2. 災害医療・看護について理解できる 3. 災害看護活動の実際を知ることができる 4. 災害時要支援者の特徴を踏まえた支援が理解できる 5. 災害時に看護職に期待される役割と課題について理解することができる 6. 国際社会の現状と看護の協力について理解できる 7. 国際化社会の現状と課題 8. 国際化社会の中での看護活動の実際 										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
	トリアージ 訓練	1	病院トリアージ訓練参加					演習	徳山・小沼		
		2	病院トリアージ訓練参加					演習	徳山・小沼		
		3	災害時の病院の機能と役割 トリアージ区分の役割と看護師の役割					グループワーク	徳山・小沼		
	災害看護	4	災害看護の基礎知識					講義	湯沢		
		5	災害サイクルに応じた看護1					講義	湯沢		
		6	災害サイクルに応じた看護2					講義	湯沢		
		7	被災者特性に応じた看護の実際1					演習、G.W	徳山・小沼		
		8	被災者特性に応じた看護の実際2					演習、G.W	徳山・小沼		
		9	被災者特性に応じた看護の実際3					演習、G.W	徳山・小沼		
	国際看護	10	国際化社会と看護					講義	川島		
		11	JICA、国際援助団体について					講義	川島		
		12	異文化と国際情勢からみた看護					講義	川島		
		13	国際化社会の現状と看護					講義	川島		
		14	国際化社会の中での看護活動の実際					講義	川島		
	15	試験・まとめ					試験・講義	徳山・小沼			
評価方法	テスト 災害トリアージへの参加状況 グループワークの参加状況 提出レポートにより評価										
履修上の注意											
テキスト	浦田喜久子編 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院										
参考図書											

授業科目	看護総合 演習Ⅰ (医療安全・多重課題)		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	3年次後期	担当者	大澤 恵実子 川合 陽子	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>医療安全の基礎知識や既習学習を活用し、医療安全に配慮した看護業務のマネジメントの実際を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護業務の特性と計画の立案プロセスについて学ぶ。 2. 多重課題の遂行における留意点を理解でき、対象者の安全に配慮した優先順位決定のための思考が理解できる。 3. 事例の発達段階や身体的、心理・社会的な特徴から、多重課題の対応の方法を考えられる。 4. 演習のリフレクションを通して、多重課題への対応力の向上を目指す。 										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	業務計画の立案とプロセスマネジメント 多重課題が生じる状況と対処 演習オリエンテーション 事例オリ					講義	大澤 川合		
		2	多重課題における対処①事前に調整できる多重課題 業務計画の作成					G.W	大澤 川合		
		3	多重課題における対処①事前に調整できる多重課題 業務計画の発表					演習	大澤 川合		
		4	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題					G.W	大澤 川合		
		5	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題					G.W	大澤 川合		
		6	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題発表					演習	大澤 川合		
		7	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題発表					演習	大澤 川合		
		8	リフレクション まとめ(45分)テストはレポート提出					演習	大澤 川合		
評価方法	GW・演習への参加の状況、レポートにより評価										
履修上の注意	演習では、看護業務のマネジメントとして、多重課題への対応を考えます。様々な発達段階や病期の患者さんを複数受け持っている場面設定を通して、多重課題(事前に調整できるもの、予測できない業務の発生時)への対応を学びます。夏季休業前に事例課題を										
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 医療安全 看護の統合と実践2 医学書院										
参考図書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践②医療安全 メディカ出版										

授業科目	看護総合 演習Ⅱ		単位	2単位	時間数	30時間	講義時期	3年次後期	担当者	塚田佳代美 松田 千春		
									職種	専任教員		
授業の ねらい ・目標	<p>医療安全・看護技術・看護倫理についての基礎的な知識を活用し、あらゆる発達段階や病期に応じた看護が実践できる発展的能力を養う 既習学習を振り返り、自分が目指す看護を具体的に表現できる能力を養う</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例の発達段階や病期に合わせた個別性のある看護技術を考え、実践できる 2. 事例への診療の補助技術、日常生活援助技術を通して、安全・安楽・自立を意識した技術提供の必要性が理解できる 3. 事例の発達段階から起こりうるリスクを予測し、リスクを未然に防ぐ関わりが考えられる 4. 看護者としての倫理的感性を高め、倫理的ジレンマを解決する思考過程を学ぶ 5. 過去の授業や実習を通して学んだことを言葉で他者に伝え、自分の描く看護を明確にし、生涯学習につなげることができる 											
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当			
		1	オリエンテーション(事例の提示と状況のアセスメント)					講義	塚田・松田			
		2	医療安全の視点から見た事例の発達段階と病期のアセスメント					講義/演習	塚田・松田			
		3	各事例の安全・安楽・自立を意識した技術提供について					G.W/演習	塚田・松田			
		4	事例の技術について検討					G.W/演習	塚田・松田			
		5	事例の技術について検討					G.W/演習	塚田・松田			
		6	事例の技術について検討					G.W/演習	塚田・松田			
		7	事例発表					G.W/演習	塚田・松田			
		8	事例発表					G.W/演習	塚田・松田			
		9	事例発表					G.W/演習	塚田・松田			
		10	各事例のリフレクション(倫理的ジレンマについて)					G.W/演習	塚田・松田			
		11	各事例のリフレクション(倫理的ジレンマについて)					G.W/演習	塚田・松田			
		看護の まとめ	12	自己の振り返り					演習	増田		
			13	お互いの思いを語り合おう					G.W/演習	増田		
			14	お互いの思いを語り合おう					G.W/演習	増田		
	15		まとめ					演習	増田			
評価方法	<p>技術試験(OSCE評価)・・・60点 Googleで知識の確認試験・・・10点 グループワークはピア評価・・・10点 レポート評価・・・20点</p>											
履修上の 注意	<p>実習室での演習が多くなります。体調管理をして授業に臨んでください。 備品の管理、服装・態度等整えられない学生は授業に参加できません。</p>											
テキスト	<p>有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 吉田みつ子監修「写真でわかる基礎看護技術アドバンス」インターメディア</p>											
参考図書	<p>医療情報科学研究所編「看護技術がみえるvol.2」基礎看護技術 メディックメディア</p>											